

2008. 4. 17

人・街・ながた震災資料室

発行人 寿 広文

編集人 武川泰恵・藤原美紀

人・街・ながた 震災資料室ニュース

2008子どもたちへのメッセージ展から ー未来へつなぐ心ー

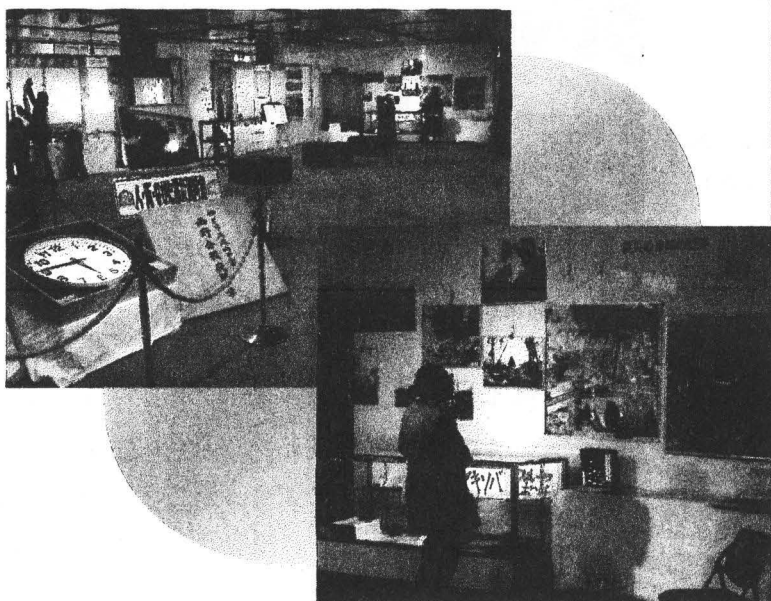
前号でもお知らせしたメッセージ展に震災資料室の保存資料を展示し、参加した。

資料室で保存している神戸市立丸山中学校西野分校の大時計が、シンボリック的存在で会場中央に展示された。

蓮池小学校の避難所で使用していた大釜、当時の様子のパネル、神戸学院大学水本ゼミ生の協力により成冊された当時発行の神戸市広報災害対策特別号、区民の方から寄贈された品々等を来場者にご覧いただいた。

会場には、体験からのメッセージ、親から子へのメッセージ、詩形のメッセージなど多くのメッセージが寄せられていた。

「展示をみて当時の様子を思い返した」と聞き、語り継いでいくことの大切さ、当時を伝える品々や資料の重要性を再認識した。



職員聞き取り調査はじまる

1995年1月17日以降、震災復旧業務に従事していた長田区役所職員は延200人を超えている。震災から10年以上が経過し、多くの職員が他の職場へ異動しており、退職した職員も少なくない。

震災復旧業務に携わっている間には思いも及ばなかった後に伝えたいことが、時間の経過とともにできているのではないだろうか。

そこで当時区役所で行った代表的な震災復旧業務毎に数人ずつの職員・元職員への聞き取り調査への協力を依頼する予定だ。

この調査は、当時同じ立場で業務を行った職員間では言わなくてもわかっていることもあるので、言葉で表して「後世に伝える」ため、震災資料室と協働で活動を行っている神戸学院大水本ゼミの学生の協力も得て行う予定だ。

ご協力をお願いします

寄贈いただきました

「サザエさんたちの呼びかけ」

阪神大震災瓦版なまず集成 1998-2008

寄贈者：震災・まちのアーカイブ

ありがとうございました。

丸山地区の人口、明泉寺町

4回の国勢調査を比較して⑭

	1955	1965	1975	1985	1990	1995	2000	2005	05 90
世帯数	431	623	638	573	575	512	583	552	0.96
人口	1,845	2,555	2,035	1,633	1,536	1,332	1,318	1,170	0.76
男	978	1,418	974	769	702	627	624	551	0.78
女	867	1,147	1,061	864	834	705	694	619	0.74
区人口	189,767	214,345	185,974	148,590	136,884	96,807	105,464	103,771	0.76

東丸山町に続いて今回は隣接する明泉寺町について見てみよう。

明泉寺は言うまでもなく禅宗・明泉寺で山号は天照山・大日寺で、大日さんで知られ、牛の寺としても信仰を集めていた。

略延起には行基菩薩創造と書いてあり、元は長坂越東山の古明泉寺大日丘にあったが戦火で焼け、1351年赤松判官光範によりこの地に復興された。

町の南端で荻藻川と大日川が合流して新湊川となって大阪湾へ注ぐ。この両河に挟まれているのが明泉寺町で1丁目の一部が平坦で、あとは坂の街である。

人口は1965年がピークで、以降減り続けており、世帯数は1975年が最大となっている。

震災による被害は全棟数441棟中、全壊は10%、半壊は26%であり、河べりの平坦地での全壊が目につく。また、木造の共同住宅が数棟なくなり、残っている建物でも空室が目立つ。



震災による人口減は95/90は区全体が30%なのにこの街は13%と少ない。

2000年は、ほぼ横ばいだったのは、復興住宅とマンションが建設されて116戸増えたのが影響している。

世帯内人口は、40年間で4人から2人になっている。丸山地区の入り口に位置するため他の丸山各町に比べて人口増が早かった。

今後の傾向は戸建住宅が増えて、共同住宅が消えていく住宅街である。